

〈座談会〉

子どもたちの出発によせて

時 昭和62年12月5日(土) 午後3時～5時
所 筑波大学附属盲学校小学部幼稚部

〓 出席者 〓

猪平 真理 (筑波大学附属盲学校小学部幼稚部)
稲垣真理子 (渋谷区立三谷幼稚園)
洞庭 千尋 (私立大和幼稚園)
河合 聡子 (同右)
向山 陽子 (編集部)

学期末のお忙しい時に、各方面の先生方にお集まりいただき、園児の卒園、入学という新しい出発によせて、語りあっていただきました。

先生方の話は、子どもたちの現状から、父母への想い、さらに、一人一人の子どもをそのままうけとめる教育への熱望へと、発展していきました。

E、今日は、保育の後、お疲れのところ、又寒い中を、お集まりいただいてありがとうございます。

この部屋は、かつて私も、わずかな間ですが勤めさせていただき、盲目のお子さん達から、先生方から、遊具から、学ぶことの多かった場所です。今日も猪平先生のご好意で、お借りすることができました。

では、自己紹介をかねて、この頃考えていらっしやることを話していただきますよう。

A、私は、ここに勤めて、ずい分長くなります。(笑)

最初きました時は、大分お年の先生が、幼稚園教諭の免許をとる勉強をしながらやっていらして、小学校のような教育でしたね。体が弱くて、お休みが多いのをカバーするためにそうなったとも思えました。数を数えさせたり、点字を教えたり、折り紙をやらせたり……。私が、子どもと一日中遊んでいますと、「何をや

っているのだ！」と思われたようです。

E、その頃は、盲障害だけのお子さん達だったのでか？

A、そうでした。今は知恵遅れと盲の重複障害のお子さんが多くきています。盲だけのお子さんは、地域の幼稚園、保育園に入れるようになったし、大きな集団に入ってやっていける方はその方が幸せだと思うの。新しい可能性をどんどん追求して行ってほしいね。

B、公立では障害のあるお子さんを入れるか入れないかは、それぞれの園で決めています。私のところは、毎年ではありませんが、入れています。主に自閉症のお子さんです。確かに、集団の中で育ちます。が、入れればいいだけでなく、設備をそのお子さんにあわせて整えたり、補助の教師をつけたり、教育委員会に考えてほしい事はたくさんありますね。ただ、今は区の子

算自体が緊縮財政の時なので、難しいんですけど……；他のお子さんのおかあさん達との関係の調整が大変です。

私も、この中では長く勤めている方かな。今は、主事ですので、園全般を見る役目です。

C、幼稚園に勤めはじめて四年目です。はじめての年長組担任なので、「卒園・入学」といわれても、これから考えなくては……という気持ちです。

ほとんどの子が小学校受験をする園で、合格して喜んでいる子と、どこにもうけ入れてもらえなくて、おかあさんが辛い気持ちになっていて、その気持ちが子どもにも反映して暗くなってしまう子がいます。

本当なら、大きくなるんだ、小学校へいくんだって喜べるのが普通なのに、うけ入れてもらえない経験、自分の存在を認めてもらえない経験をせざるを得なくなった子どもが何人かいるので、担任としては辛いところです。

B、うちの園でも、今年は二、三人が小学校受験をしました。塾へいくために、幼稚園を休むのね。年長の今、30人のクラス集団の中で、成長がみられる大事な時なのに、休まれると、その子もクラスから浮いてしまうし、私達も育てたいものを育てられない。幼児が、塾に通わなくては入れないような小学校受験体制が悪いわね。人間形成の基なのに。

確かに個性の強い子や、大きな集団ではつぶされてしまう子には、その子にあった学校へ行った方がいいと思うし、どの子も全て、公立小学校へ行けばいいとは言えません。ただ、入学する子を選ぶ学校では、いろいろな子に出会う機会が少くなるのは事実で、大人になった時、視野が狭くならないようにしてほしいわ。

E、今日の午前中、ある小学校一年から六年を対象に、音楽会の司会をしました。より身近に生の音を、と、演奏者と子ども達は、同じフロアでやります。1m位の距離にいた一、二年生は、体を動かしたり、

声を出したり、時には演奏者に話しかけたり、とてもおもしろい反応だった。ところが、校長先生はこの反応を、一、二年生には音楽会はまだ無理ととっていらしてね。確かに、五、六年生は「動かずに」反応していたけれど、私達演奏する側は、もっと体全体をリラックスして楽しんでいいのだと、口々に話してきました。小学校の先生方のこのあたりの感じ方、わかってほしいと思いました。

D、あるおかあさんが言ってもらしたけど、のびのびとした暖かい雰囲気幼稚園でも、うちの子は、入園当初、慣れるまで、自家中毒をおこした。小学校の入学前の身体検査の時、真すぐに続く小学校の廊下を歩かないで歩いている時、我が子の緊張が高まるのがわかった。この子は、又、自家中毒をおこすかもしれない。私の役目は、この子を支えてやることだと思っただけ。

私もCさんと同じ幼稚園で、やはり、はじめての年長をもっています。この話のおかあさんのように、子

どもの今を、わかってあげられるおかあさんが、たくさんいるといいのになって思います。特にこの、小学校が目の前にぶらさがっている時期に。

B、そうね、五歳児の後半って、幼稚園生活で、最もよく遊べる時期であると同時に、小学校の身体検査の通知がきたり、親は、ランドセルや机はどうしようなどと考えて、小学校を意識する時ね。と同時に、小学校入学時に照準をあわせて、今のままでいいのかしらと、今、現在の子どもを見る目を見失いやすい時ね。

E、よく遊んで子ども生活を大切にしてくれる園で、五歳児の秋頃から、母親達の間でよく話されるのが、「小学校へいってから、じっと椅子に坐っていられないのは、うちの園の卒業生だ」〇頁をあげなさいといわれて開けられないのはうちの園の子」とかね。

そりゃ幼稚園の時からじっと坐っていることや、〇頁を開けることに慣れている子ども達と一緒にになると、そうなるわよね。

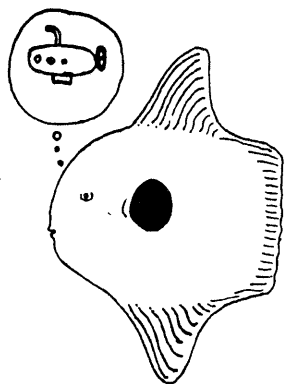
だから、入学時の子どもの気持ちに寄りそって支え

てあげられる母親か、入学前から、子どもを引っぱり上げようと躍起になる母親かの違いが出てくるわね。

C、小学校の先生だって、困った顔をする先生と、よく遊べます、将来が楽しみですって評価してくださる先生もいるってききます。

B、小学校に対して感じていること、たくさんあるのですが、私達が「いい子」と思った子が、小学校の先生達の価値観ではいい子ではない場合があるの。授業をちゃんと書いて勉強のできる子が小学校の先生達にとっていい子なの。友達といまだに遊べない子なのに……。子どもの生活をもっとよくみてほしい。生活を見る目を先生達がもてば、評価される子ももっといると思う。全教科もってその上生活まで見るのは大変だというのなら、自分の得意な科目だけを工夫を凝らして授業し、午後は、生活を共にするようなカリキュラムにするとか、先生も生徒も、もっと生き生きできる方法ってありますよねえ。

A、うちには娘が三人います。私は、小学生時代は遊べ



ばいいと思っただけですが、高学年になると「このおかあさん、高学年になっても遊びのことばかり言ってる。」って奇異な目で見られたりもしましたよ。

(笑)

一番上の娘は入学前の身体検査でずらっと並んだ講堂に入るなり泣きましたね。泣いたのは我が子一人だけ。家に帰っておばあちゃんに話したら「あんたも泣いたよ。」(笑)それこそ、集団の中でつぶされそうな子で、毎日「忘れ物をしないように」と注意ばかりいただってくる。で、私、担任の先生に申し上げたんです。「先生、あまりおっしゃらないでいただきたい。うちの子は寝る前になると『忘れ物ないかしら』って心配で寝つかれないんです。私は『忘れ物したっていいじゃない。先生にお借りすればいいじゃない』って言って寝かすんです。」それぞれ個性が違うので、先生のご注意に対して、家ではこう言ってますからよろしくと。先生はマァーという顔をしながらも「ハイ、わかりました。」とは言ってくださいましたね。

E、今のお話のように、母親が自分の子どもについて、

デーンとしていればいいのね。自分の子どもに関しては、他の誰よりもプロフェッショナルで、先生によって評価がかわっても動揺せず子どもが先生との関係でうまくいっていない時は「家ではこう言ってるんですよ。」って、先生と大人の話しあいができるといいですね。

C、A先生が遊べばいいと育てたとおっしゃいましたが、今、難しくはないですか？

A、難しくなりましたね。家に子どもを入れないお家が多くなりましたね。お年寄と若夫婦と一緒に住んでるお宅が多くて、騒がしいとか、汚れるとかいってね。私の家では、保育園に通っていたので、地域のお子さんと連がりがあるなかったので連がりを持つために、庭に砂場を作ったのよ。それで誰でもいらっやいて。

B、今は親が努力しないと遊ぶ環境ができなくなりましてね。砂場つくったなんてすごいですね。

D、私も小さい時、砂場つくってもらいました。

A、私達は、遊びが大切だって学んだから、何かをせずにはいられないのね。芝生がだめになって、父はいやな顔したけど、今の時期だけ仕方ないでしょうって、がまんしてもらったの。

ただ電話でお友達と約束するのよね。文明の利器か、仕方ないのかな。

B、少しは現代に合わせないと。(笑)

D、こうしてお話を伺っていると、素朴な疑問としてどうして近くの小学校じゃだめで、皆、受験するのだろう。聞くと、「いい中学へ行けませんから。」って、今の事じゃなくて、漠然とした未来のことで、あまり、大した理由じゃないのに、子ども達の今の大事な時期を壊して思っちゃう。

B、ただね、先の生活が安定するためには、ある程度学歴が必要な世の中である事は否めないでしょう。だから、おかあさん達を批判ばかりしていてもだめだね。おかあさん達をそうさせない何かを私達で作って

いかなきゃだめだと思うのね。それは、いい保育を見せていくという事。いい保育を見せていくと、おかあさん達も、子どもの何を見ればいいのかわかってきますよね。おかあさん達が、幼稚園、小学校を選ぶ尺度もかわってききますよね。価値観がかわってくる。私達のできることは小さいかもしれないけれど、嘆くよりも自分達が示すことの方が大切だと思うの。

E、いい事を言うてくださった。どの親も自分の子どもが輝いてほしいし、どんな時に我が子が輝いているかは見ているもの。

そして、幼稚園の先生って大切ですよ。おけいこ事が盛んで、あっちこっちに「せんせい」と呼べる人がいても、おかあさん達は、幼児教育のプロフェッショナルは幼稚園の先生だという事をわかっているし、期待しています。プールで子ども達が泳ぐのを見ながら「あんなこと、あの年齢の子に無理よね。幼児教育のプロジェクトものね、仕方ないわね。」なんて言っています。

*

A、入学の話に戻るけれど、見えないお子さんでも、弱視のお子さんでも普通学級に希望される人がいますね。大変な努力をしないと入れないのね。お子さん連れて、教育委員会や学校に面接に行くのね。その時に、だめだと言われたり、いいですよと言われたり、ものすごい動揺を母子で味わうのね。「障害」というものを改めて身にしみて思うのではないかしら。そういうお子さんのほとんどが、統合保育で、幼稚園や保育園に通っているから、目が見えないとか見えにくい事は生活の中で、身にしみているだろうけれど、自分が見えない事が、こんなに人を怒らせたり、悲しませたりする事であろうとは、自分の事で、家族全員が明るくなったり、暗くなったりするような経験はきくと初めてなのではないかしらね。願いが成就した方もいれば、だめだった方もいるでしょう。障害への、社会への挑戦という事では、やらねばならない事だけ

どもね、辛いですね。

E、あちらこちらへつれてゆかれて、本人の前で「目が見えないんですよ。だから盲学校へ行きなさいってってるじゃありませんか。」なんて言葉を聞くんですものね。知恵がおくれている子ども達でも、言われている理屈はわからなくとも、大好きなおかあさんが悲しんでいるのは、わかりますものね。

C、五歳児の後半って、幼稚園生活の中で、友達関係や、自己充実で最高潮の時ですよ。この時期に、親や、教師が、小学校入学時を心配して、子どもの能力以上の事を要求したり、何かをできるかできないでその子を評価したりすることは、子ども自身がせっかく身につけた、自分自身の望みを自分自身で叶える姿勢をスポイルすることにもなるし、平安で満たされた生活を送れたはずが、逆のことになったりするでしょ。それだけは、避けたい。せっかくの幼児期の黄金期のなもの。

B、小学校って一年生を幼く扱いきると思いません

か？ 何でもできたのに赤ちゃん扱いしすぎて。

E、でも、子どもって年長でぐんと伸びて、一年生で楽をして、力をためているのかもしれない。娘にね、「あなたが年長さんになった時、年少さんに入ってくる子よ。」っていったら「年長さんか、疲れるんだよね」って。(笑)

B 世話されすぎて嫌がる子もいますね。

A 障害児なんてそうね。皆、親切心から手を出しすぎてね。盲の子は何でもできるのに。

E、幼稚園では、いじめられっ子が、小学校へ行ったら、誰よりも上手な調停人になったり。誰よりも、いじめられた子の気持ちを代弁できたりどう優しくされるのが嬉しいのかを知っていたりね。

子どもは、一時も、無駄には生きてないをつくづく思います。そろそろ時間がきました。若いお二人に一言ずつお願いします。

C、学校へ行く事を楽しみにして、大きくなるんだと喜んでいってほしい。大きくなることを心から嬉しく思

いながら、その気持ちをつぶされないように育ていてほしい。子どもの成長は、卒園・入学で区切られるものではないのだから。

D、今、楽しく、生きていってほしい。おかあさん達も。

E、今日は、ありがとうございました。